

平成30年度コミュニティ・スクール別府市連絡会

# 学校・家庭・地域の協働化をめざして ～教職大学院で学んだこと～

効果的なコミュニティ・スクールを構築するために  
学校と学校運営協議会の一体的運営による実践をとおして～

大分大学教職大学院 1期生

縄田 早苗

(社会教育課社会教育主事)

# 本日の内容

- 大分大学教職大学院とは
- 研究目的と課題
- 実地研究における実践
- 効果的なコミュニティ・スクール構築のマネジメントに関する課題と展望

# 大分大学教職大学院とは

## 学校経営コース

- ・校長や主任等のリーダーシップが発揮され、機能する組織的で一体的な学校運営を可能にする経営力を持った管理職
- ・学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）のような新しい学校づくりにおいて必要とされる家庭や地域との連携力を持った管理職

### ●コース科目（18単位）

学校マネジメント	組織としての危機管理とネットワーク	教職員の職能開発
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育法規の解釈・運用に関する実践研究</li> <li>・学校マネジメントの実践研究1</li> <li>・学校マネジメントの実践研究2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校危機管理の理論とプログラム開発</li> <li>・学校間連携・地域連携の実践研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の人材育成に関する理論とプログラム開発</li> <li>・校内研究の理論とプログラム開発</li> </ul>
<b>省費科目</b> 学校マネジメント研究（4単位）		

### ●実習科目（10単位）

学校経営実地研究Ⅰ・学校経営実地研究Ⅱ・学校経営実地研究Ⅲ

### ●共通科目（20単位）

教育課程の編成及び実施	教科等の実践的な指導方法	生徒指導及び教育相談	学級経営及び学校経営	学校教育と教員の在り方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成の理論と実践</li> <li>・特色あるカリキュラムづくりの理論と実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の指導計画と教材研究の演習</li> <li>・授業での学習支援と指導法に関する事例分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの問題行動や規範意識に関する事例研究</li> <li>・子ども支援の実践研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校組織マネジメントの実践演習</li> <li>・子どもを活かす学級経営の実践演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の社会的役割と自己啓発</li> <li>・教員のための人権教育の理論と方法</li> </ul>

●科目合計 50単位

## 教職実践コース

- ・知識・技能を活用する学習活動、課題探求型の学習、協働的な学びなど、新しい学びをデザインできる実践的指導力を持った新人・中堅教員
- ・学校内外の人的資源を活用しながら組織的に子どもたちの自己指導能力を育成することのできる実践的指導力を持った新人・中堅教員

### ●コース科目（18単位）

教科等の教材開発、授業改善	人間形成・発達援助	現代的な教育課題への対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材開発演習</li> <li>・授業分析演習</li> <li>・ICT活用実践演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての個性を活かす教育環境の構成</li> <li>・学校カウンセリング・コンサルテーションの実践研究</li> <li>・安心して成長できる学校環境づくりの探求</li> <li>・自立した個を育てる教育活動の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県における教育課題の探求</li> </ul>
<b>省費科目</b> 教育実践研究（4単位）		

### ●実習科目（10単位）

学校実践実地研究Ⅰ・学校実践実地研究Ⅱ・学校実践実地研究Ⅲ



- 「地域とともにある学校」への転換が求められている
- コミュニティ・スクールへの期待



これまでの「連携」と、  
どう違うの？

どのような成果が  
得られるの？

# どのようにマネジメントすればよいか？

大林正史（2015）『学校運営協議会の導入による  
学校教育の改善過程に関する研究』より

**学校改善**

**ソーシャル・キャピタル  
の蓄積**

**協働**

教員・委員の意識を高め、共同の教育活動を創出し活発にしていく

# 「共存的協働」の2つの特徴

- ①多様な特性を互いに尊重しながら関わりあえる
- ②活動をとおして、目的やビジョン、計画が次第に共有される

**教育に対する認識や価値が多様な  
教員・保護者・住民の協働に有効**

志々田まなみ他（2015）『学校とともにある地域づくりを促す「協働」に関する考察』より

# 学校組織開発モデル

- ①教員の「**効力感**」と「**指し手意識**」による  
**内発的改善力の向上**
- ②PDCAサイクルのそれぞれの過程における  
情報交換等を行う場「**コアシステム**」の**位置づけ**
- ③「**コアシステム**」を支え、促進させる機能  
**「プロセス・ファシリテート機能」の活性化**

佐古秀一（2011）『学校の組織特性をふまえた学校組織変革の基本モデル』より

# 実地研究～参与観察～

○実習校 別府市立南小学校

※平成14年4月1日に、別府市立南小学校・別府市立  
浜脇小学校の統合により開校。

○実習期間 平成29年4月1日～12月20日

○教育目標 本気で取り組む南っ子の育成

○学級数 15学級      ○児童数 294名

○教職員数 37名



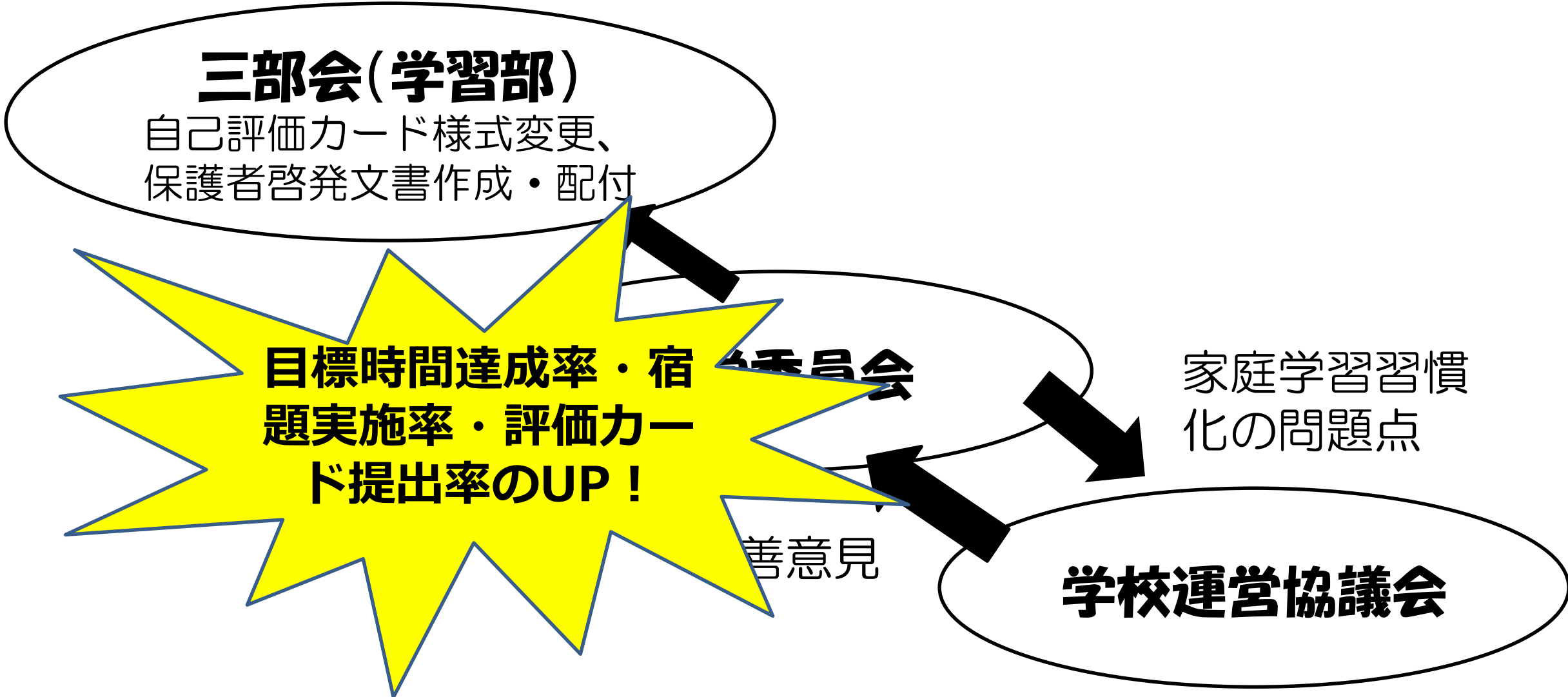
# 実習校における取組

- 教員・委員の情報交換の場（コア・システム）  
→ 学校運営協議会、運営委員会・三部会
- 奉仕・支援によるリーダーシップと、他者貢献感を高めるコミュニケーション
- 情報交換を活性化する機能（プロセス・ファシリテート機能）  
→ 管理職・主幹教諭、運営委員会
- 情報の精選・交換方法

表1 各協働過程における実践事例

過程	学校組織（運営委員会・三部会等） （コア・システム）	管理職・主幹教諭の動き （プロセス・ファシリテート機能）	協議会 （コア・システム）
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運営委員会の改善（次第変更・主任等による情報共有の仕組みづくり・ファシリテーション導入）</li> <li>○教務かわら版，協議会記録，新聞切り抜き，冊子資料の回覧</li> </ul>	<p>改善</p> <p>支援</p> <p>情報（学習機会）提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員の学識経験者等に大学講師を委嘱</li> <li>○別府市立学校運営協議会設置規則説明と協議会委員の役割確認</li> <li>○協議会記録，新聞切り抜きの配付</li> </ul>
実態把握 ～ 課題生成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童・保護者・教員アンケート（以下，アンケートと略す。）の実施</li> <li>○家庭学習児童自己評価シートの集約・分析</li> <li>○三部会・運営委員会における，アンケート結果及び各種学力調査結果の分析と改善の方向性についての協議</li> <li>○主任等の協議会参加</li> </ul>	<p>情報提供</p> <p>支援</p> <p>支援</p> <p>情報提供</p> <p>改善・支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校関係者評価の実施・家庭学習の取り組み評価</li> <li>○アンケート結果及び学力調査結果と分析を受けて，改善策を協議</li> <li>○授業参観，給食試食</li> <li>○主任等との意見交換</li> </ul>
実践 ～ 評価・確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習児童自己評価活動の改善</li> <li>○放課後しゅくだい教室の実施</li> <li>○南小「学ぶ力」アップセミナーの実施</li> </ul>	<p>情報提供</p> <p>情報交換</p> <p>情報交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習習慣化に向けた取組に対する改善提案</li> <li>○放課後しゅくだい教室の実施</li> <li>○南小「学ぶ力」アップセミナーの実施</li> </ul>

# 家庭学習自己評価活動改善のプロセス



# 考察～新たな教育活動創発・改善を促すポイント～

## ①情報の取捨選択

- ・各プロセスのねらいに直結した情報
- ・学校・地域それぞれの文化や教育の在り様を相互理解で  
きる情報

## ②教員・委員個々人への自律性支援

- ・学習機会の提供
- ・対話を促すコミュニケーション

# 考察～新たな教育活動創発・改善を促すポイント～

## ③情報を交換・交流する場（コア・システム）

- ・（管理職⇔委員）の直接交換・交流の場…学校運営協議会  
（主任⇔委員）の間接交換・交流の場→運営委員会
- ・ 運営委員会と三部会をつなぎ連続させることで、三部会を  
（教員⇔委員）の間接的な情報交換・交流の場と位置付ける
- ・ 資料回覧やアンケートなどによる情報収集も （教員⇔委員）の  
間接的な交換・交流の場

# 考察～新たな教育活動創発・改善を促すポイント～

④情報の交換・交流を促進・活性化する機能(プロセス・ファシリテート機能)

- ・ 管理職と主幹教諭
- ・ 三部会を活性化する ミドルリーダーの動きを、引き出す、支える

# 考察～新たな教育活動創発・改善を促すポイント～

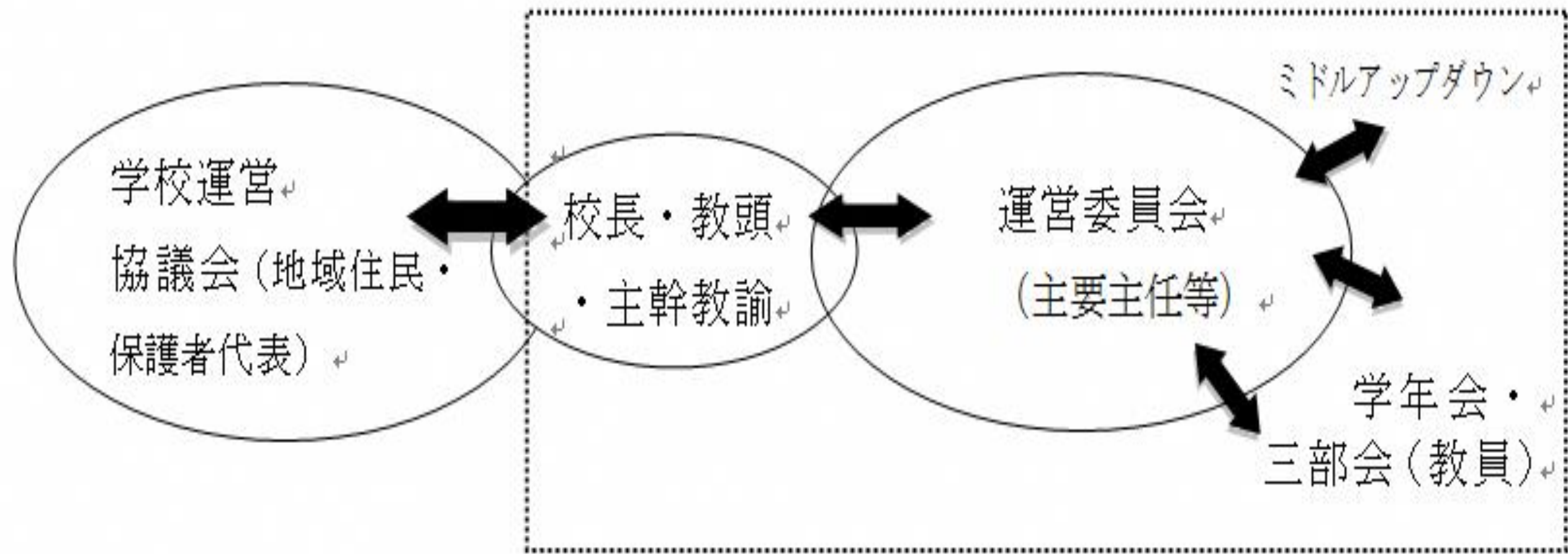
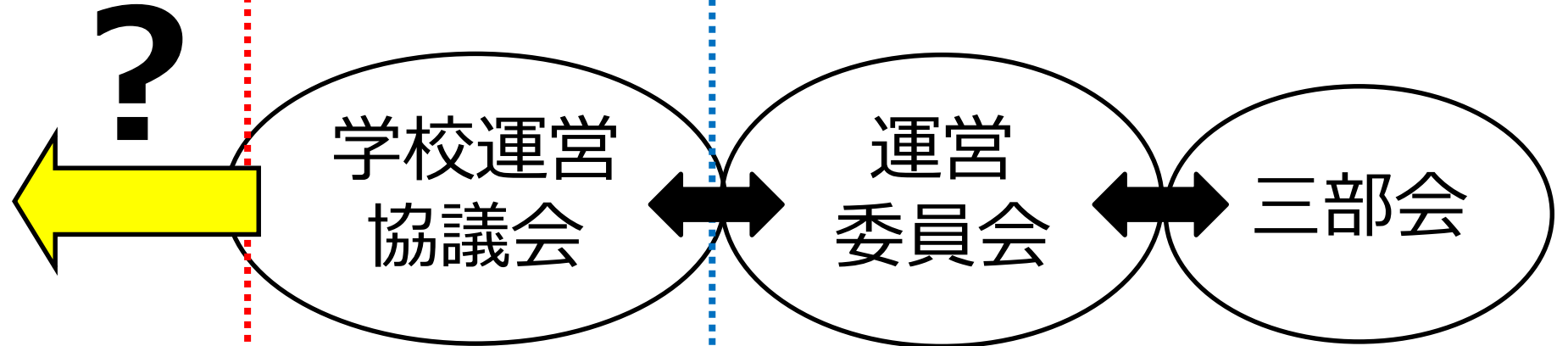


図1 情報を共有する場の連動

# 誰が、どのように働きかけていけばよいのか？

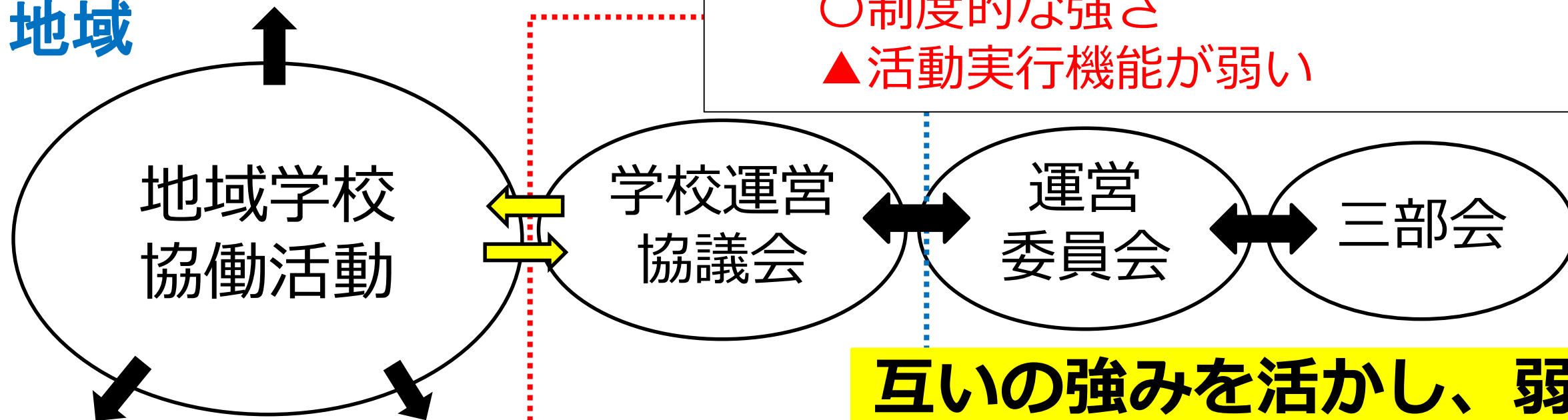
地域  
住民  
保護者



学校

# 効果的なコミュニティ・スクール構築の展望

地域



コミュニティ・スクールの強み・弱み

○制度的な強さ

▲活動実行機能が弱い

地域学校協働活動の強み・弱み

○実践力

▲制度的に弱い、組織体として弱い

互いの強みを活かし、弱みを補う連携の在り方を検討していく





ご清聴、ありがとうございました